

## 各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫  
両団体理事長 半 田 晴 久  
環境技術委員長 坂 本 忠 彦  
両団体専務理事 清 原 淳 平

## 環境技術委員会のお知らせ (第364回)

日時 令和元年12月18日(水) 午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第3会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第3会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、「環境問題について、昨今、想うこと」

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、回収プラスチックの再資源化

解説 道祖土勝彦元日本大学准教授

3、『環境技術関連ニュース NO.185』

解説 中島稔科学技術部会長

報告 去る11月20日開催の第363回環境技術委員会は、坂本忠彦環境技術委員長が議長を務め行われました。まず、中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース No.184』の解説がありました。今回は、○温暖化の進行がこれ以上進むと今年の19号以上の台風が複数回上陸する危険性がある。海面水温の上昇により、勢力は衰えず、大気に含まれる水蒸気量が増えるので雨量も増す。○世界の温室効果ガス排出量は2年連続増加。化石燃料の消費量がアジア太平洋地域で増加したのが原因か。○福島第一原発の処理水を海洋放出したとしても日本だけが非難されるいわれはない。例えば韓国の原発からもトリチ

ウムは放出されていたからだ。国際基準は満たしている。○微生物で汚染土壌を浄化する技術。○プラスチック問題解決に向けて、日本からイノベーションを起こすことに期待したい、という意見、などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

次に、坂本委員長より「環境問題について、昨今、想うこと」と題して開会挨拶がありました。4日、トランプ大統領がパリ協定からの離脱を正式表明した。正式な離脱はちょうど1年後になるわけだが、その日はアメリカ大統領選挙の結果が判明する日でもある。つまり、民主党の候補が仮に当選した場合は、この決定が覆される可能性もまだあるということだ。今回は、CO2の資源化につながる話ということで、大いに期待したい。

次に、清原淳平専務理事より湯川英明CO2資源化研究所代表取締役社長の経歴紹介がありました。次に、湯川社長より、『CO2を原料とするプラスチック』について解説がありました。主体となるのはCO2と水素をエサとする水素菌である。1976年に児玉徹東大名誉教授が分離に成功した菌で、多くは52℃程度の温泉の源泉付近に生息する。1gの菌が24時間で16tにまで増殖する。植物は太陽のエネルギーを利用して水を水素と酸素に分離するが、水素菌は水素の還元作用を利用する。この水素菌はたんぱく質を創出するので、食糧としても利用できるが、ポリエチレンの原料となるエタノールを製造でき、生分解性プラスチックのポリ乳酸の工業化も可能になった。遺伝子組み換えを行えば、工業品への利用も容易だ。また、バイオジェット燃料への利用も考えている。航空業界では、CO2排出量を50%削減する必要に迫られており、植物由来のバイオジェット燃料への需要は高い。藻類の燃料化は、増殖のスピードが遅く、常に攪拌し続けなければならないので、大量製造に適さない。水素菌由来の方が水素を供給し続けなければならないデメリットこそあれ、増殖の性能は高い。

★レクチュアにつき、当日会費千円にご協力をお願い申し上げます。

次回、12月18日(水)の環境技術委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 \_\_\_\_\_

貴方様のFAX \_\_\_\_\_

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の当日会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール [shigeta@jidaisassin.jp](mailto:shigeta@jidaisassin.jp)